

団塊のカタログ



第7号

平成9年10月

昭和22年から始まった団塊の世代の最終便がこの24年である。

あれから早くも50年、「お前らの世代はメチャクチャ人数が多いから、いろんなことがつきまってくるぞ」と中学校の頃に先生にオドされ、確かにその後、受験・就職・結

婚・育児とその時々 of 厳しい現実と直面したが、それなりの楽しみも少なくなかった。

問題はこれからで、年金・医療などのキビしい現実が次々に待ち受けているかと思うとマックラになるが、次の世代はもっとタイヘンなんだと思うと気が楽になる。

第2章



その2

昭和24年

この年流行ったそい

音 楽

- ★青い山脈 (藤山 一郎)
- ★銀座カンカン娘 (高峰 秀子)
- ★悲しき口笛 (美空ひばり)
- ★イヨマンテの夜 (伊藤 久男)

ワシら団塊の世代が満1才の時には、こんな曲が流行った。

♪わーかーくッあっかるいうったごえにー
 ♪あの子かわいや カンカンむーすめー
 ♪丘のホテルの 赤い灯が
 ♪イーヨマンテ〜 ホーホッホッホ〜

こころへんの曲になると、小学生の時によく口ずさんだものである。

ワシらの世代がこの中で一曲選ぶなら、ダントツで青い山脈だ。

ジングルベルと最初の1小節が全く同じイントロ (本当です) のこの曲、今の十代も聞いたことくらいはあるだろう。

もともとは石坂洋二郎原作の同名の青春小説を、原節子・池部良主演でこの年映画化された時の主題歌である。

昭和22年に朝日新聞に連載され、大反響を呼んだのだが、当時としては新しいタイプの女性というので新子と命名されたヒロインが主人公だったのと、偽ラブ・レター事件というのがあって、風采の上がらない教師が「恋しい」を「変しい」と読み上げる名場面(?) が話題になったくらいのそんな程度の印象しかないB級映画である。

この第一作目を初めとして何回となくクドいくらいに映画化され、吉永小百合・浜田光男のヤツならワシらの世代で見たヤツは多いはずだが、ストーリーは紹介するのも馬鹿馬鹿しいくらい時代遅れで、終戦直後にはこれでも新しかったんだナァと、逆の意味で当時ミョーに感動した覚えがある。

「今どきの若い者は」と言われていたであろう新子ちゃんも今は六十代半ば、しっかり年金を受け取っていらっしゃいます。

映 画

- ★仔鹿物語 (グレゴリー・ペック)
- ★哀 愁 (ビビアン・リー、
ロバート・テラー)
- ★腰抜け二丁拳銃 (ボブ・ホープ)
- ★野 良 犬 (監督黒沢 明)
- ★青い山脈 (原 節子、池部 良)

この中では、「仔鹿物語」と「野良犬」をテレビの名画劇場で一回見ただけだ。

生まれたばかりの仔鹿(「The Yearling」=満1才の動物が原題)を育てる幼い少年とその父親の物語だが、父と子の間の愛情がホノボノと感じられる名作である。

家族のように大切に育ててきた仔鹿が、農民の命ともいえるべき、出てきたばかりの作物の芽を食べてしまう。

開拓精神(フロンティア・スピリット)がアメリカ合衆国の誇りであることに異存はないが、言葉を変えれば、もともとあった大自然インディアンと原住民のバランスを自分たちの都合にあわせて勝手に変えてきた歴史ともいえる。

バンビのように可愛い仔鹿が大自然を、少年が人間の甘えを、父親がキビしい現実をそれぞれ象徴しているようで、なんともやりきれないが、これら三ツどもえの愛情が免罪符となっていて、とりあえずは救われている。

結局、仔鹿は森に帰って行き、その後再会した少年を文字通りシカトする。

悲しんでいる少年を父親が優しく慰め、父子の愛情が確認されてメデタシメデタシ。

原作も読んだが、確かに良かった。

☆

日本の映画監督はゴマンというが、大きく二つに分類される。

一つは黒沢明、もう一つは彼以外だ。

そんな黒沢明監督、「羅生門」のところでいつかお目にかかりましょう。

ス ポ ー ツ

- ★プロ野球、セ・パ2リーグに分裂

元は1リーグ制だったが、この年からセントラルとパシフィックに分かれた。

ところで、セントラルとパシフィックの本当の意味をご存じでしょーか。

二つの連盟旗にはそれぞれのシンボル・マークがあって、日本語で中央鉄道野球連盟・太平洋野球連盟とある。

アメリカ合衆国を東西に縦断しているのが中央鉄道、太平洋岸を南北に突っ走っているのが太平洋鉄道パシフィックなので、野球の本場アメリカの鉄道事情にあやかっただろう。

東海道野球連盟とか日本海野球連盟にでもすりゃ良かったのに。

文 学

- ★山 の 音 (川 端 康 成)
- ★浮 雲 (林 芙 美 子)
- ★仮 面 の 告 白 (三島由紀夫)
- ★宮 本 武 蔵 (吉 川 英 治)
- ★本 日 休 診 (井 伏 鱒 二)
- ★風と共に去りぬ (ミッチェル)
- ☆夫婦生活などカストリ雑誌続々創刊
- ☆芥川賞 井上 靖 (闘牛)
- ☆直木賞 富田常雄 (面・刺青) ほか

恥ずかしながら、この中では「山の音」を高校生の時に読んでいて、短編の多い川端康成サンにしては、珍しく長かったことしか覚えていない。

ミステリーとかSFが好きで、純文学にはあまり縁のないワシであるが、川端サンの文章は確かに美しいと思う。

ことさら難しさを気取ることもなく、中学生にも充分読みこなせる作品ぞろいであるところもうれしい。

そんな中で最もイヤらしいのは、なんとい
っても昭和35年から36年にかけて発表さ
れた**眠れる美女**であろう。

睡眠薬で眠らせた美少女を老人があっちこ
っちいじくり回す物語であるが、原作に忠実
に映画化されれば、美しくもおぞましい大芸
術作品に仕上がるのではないかと思うのだが
三国連太郎・宮沢りえ主演、篠山紀信監督で
だれかプロデュースしてください。

————— ☆ —————

多くの作品が映画化されているだけでも大
したものだが、昭和43年にはノーベル文学
賞を受賞し世界に認められたが、その4年後
の47年4月、逗子市内のマンションの自室
で自らの命を絶った。

遺書はなかったが、爆発・火災を引き起こ
す危険性が強く、最も他人迷惑なガス自殺で
あったことは残念である。

「若いお手伝いさんに対する執着が死の一
因」とする小説「事故のてんまつ」（臼井吉
見著）が発表され、これが死者の名誉権と被
差別部落の問題を引き起こし、ノーベル賞受
賞者にふさわしくない幕切れになってしまっ
た。

だからといって、文学としての価値には影
響するものではない。

文学に限らず、芸術家の私生活と作品は全
くの別モノ。

漫 画

- ★あんみつ姫（倉金 良行）
- ★大 都 会（手塚 治虫）
- ★サザエさん（長谷川町子、朝日新聞連載）
- ★轟 先 生（秋好 馨、読売新聞連載）
- ★デンスケ（横山 隆一、毎日新聞連載）



ワシらの世代におなじみの作品ぞろい。
今の少女漫画のヒロインは目玉が顔の半分

ほどあるが、この**あんみつ姫**は目がテン。

33年に**中原美紗緒**の主演でテレビ化され
ている。

————— ☆ —————

小学生が新聞を見る（読むではない）とす
れば4コマ漫画しかない。

という訳で、おヒゲの**轟先生**、サラリーマ
ンのデンスケは知っていたし、サザエさんに
いたっては昔も今も国民的人気漫画である。

日曜日の6時半と火曜日の七時に時間差放
映され、高視聴率を誇るアニメの方がおなじ
みだが、実はこんなに古い頃からあった。

スポンサーが電気会社の「T芝」であるこ
とから、その時代の最新の電気製品が目立た
ぬように登場するところなどニクいが、再放
送で流行おくれの電気製品（二槽式の洗濯機
など）が出てくるとつい笑ってしまう。

たまに銀行などで古い単行本（よりぬきサ
ザエさんとか）を見かけるが、一コマ一コマ
がその頃の世相を思い出させてくれる。

Fテレビ系列には珍しく家族揃って楽しめ
る数少ない番組の原作であるとともに、絵で
見る戦後史と言っても良いだろう。

国民栄誉賞も当然だが、手塚治虫さんはな
ぜダメだったのだろうか。

国民的人気は互角としても、作品の量とジ
ャナルの広さ、アトムやジャングル大帝など
の国際性では群を抜いていると思うのだが。

流 行

- | | |
|---------|--------|
| ★アジャパー | ★ギョッ |
| ★駅弁大学 | ★ニコヨン |
| ★ワシマン | ★三バシ |
| ★さかさクラゲ | ★自転車操業 |
| ☆穴あき五円玉 | |



アジャパー — は伴淳三郎のギャグ
で、「ありゃまゝ」が語源。

ギョッ^{うつみ とっば}は内海突破がラジオの「陽気な喫茶店」で何気なく使ったのが思わぬ反響を呼んで、そのままギャグになったもの。

———— ☆ ————

5月の国立学校設置法の交付を受け、各都道府県に新制の国立大学を設置された。

駅ごとに駅弁があることから**駅弁大学**といわれるようになった。

———— ☆ ————

ニコヨンは土木工事などの日当が240円だったところから。

———— ☆ ————

ワンマンはそもそも独裁者^{よしだしげる}を意味するが、この場合は当時の総理大臣吉田茂のことをいう。

自宅が神奈川県の大磯にあるので、国会に通勤しやすいように東京・御殿場間に「横浜新道」が建設され、これを当時はワンマン道路といったりした。

———— ☆ ————

さかさクラゲはラブ・ホテル^つ（連れ込み旅館）のことだが、その入り口に目印として温泉マークが使われていた。

それがクラゲを逆さにしたようだったのでこんな風に呼ばれていたのだ。

例えばマクドナルドの黄色いMのマーク、ケツを逆さにしたように見えないこともないが、それと同じ理屈である。

———— ☆ ————

タイヤが回らなくなったら自転車は倒れてしまう様に、絶えず手形や資金を回転させないとツブれてしまう危なっかしい経営が**自転車操業**で、今でもよく使われる。

———— ☆ ————

番外は**穴あき五円玉**。

当時、穴あき硬貨は五円玉しかなかったの
で、結構ガキ共の遊び道具に役立った。

穴にヒモを2本通して五円玉で片目をふさ

げば、柳生十兵衛になる。

丈夫な麻ヒモを一本長めに切って穴のところでしっかり結び、一方の端をオモチャの刀^{ししど ばいけん}につなげば**穴戸梅軒の鎖ガマ**。

たくさん集めてヒモでまとめてズボンのベルトに通してジャラジャラ鳴らして得意がったりするヤツもいた。

新 製 品

★ポラロイド・カメラ

★ナイロン靴下



戦後強くなったものに女と靴下がある。

戦前に比べれば女性の社会進出が目覚ましくなったことと、それまで粗悪だった人絹やスフに代って、丈夫な**ナイロン**製の**靴下**が普及したことを指す。

この頃のは短いソックスのことで、ストッキングが本格的に大量生産されるようになるのは、3年後の昭和27年からである。

値 段

★電気洗濯機 53,000円

★はとバス 250円

★1ドル 360円



この頃の**電気洗濯機**は「かくはん式」といってガッチャンガッチャンかき回すヤツで、生地はいたむワウるさいワで、やがて回転式と水流式にとってかわられてしまった。

今なら全自動でこのくらいの値段か。

———— ☆ ————

今のは**とバス**だと夜のデラックス・コースで20,000円以上のもある。

———— ☆ ————

1ドルも今は120円前後だが、一時期80円を割ったこともあった。